

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	◎	－	－	－
(北海道)	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・前年に収穫された果物が豊作だったこともあり、やや持ち直し傾向にある。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・1都10府県に出されていた緊急事態宣言が徐々に解除されたこともあり、3か月前と比べると人の動きが出てきている。直近の旅客数は3か月前の半分程度まで回復している。前年比では140%を超えているが、前年の今頃はちょうど北海道独自の緊急事態宣言が出ていた時期であるため、比較にならない。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの沈静化に伴い、人出も少しずつ増えてきている。ただ、いまだに新型コロナウイルス流行以前の水準には戻っていない。
	○	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・徐々に売上が前年を上回っている。特に特選品、時計、宝飾など的高額商材の動きが良い。来客数も、国の緊急事態宣言が終了したことで、前々月や前月と比較して増えている。
	○	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・国による緊急事態宣言が解除されてから、来客数が顕著に増加している。この傾向はしばらく続く。
	○	スーパー（店長）	販売量の動き	・前年は北海道独自の緊急事態宣言発出の影響もあり、衣料品、日用品が大幅に落ち込んだ月であったが、今年は商材の動きも来客数も前年以上となっている。ただし、衣料品はフォーマル、スーツなど、ビジネス関連商材の動きが悪く、販売量は一昨年の80%程度にとどまっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルス禍の影響で酒類の出荷量が減っていたが、3月に入ってやや回復の兆しが見られる。ただし、今後、感染状況が拡大したり、行政から再度の自粛要請が出されたりすることも懸念されるため、このまま回復基調が続くかは不透明である。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・売上は増加してきているが、来客数は新型コロナウイルスの流行が一巡しているにもかかわらず、いまだに減少傾向で推移している。
	○	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・最悪だった前年を基準にすると販売量は改善しているが、一昨年の70%の水準にとどまっている。ただ、国による緊急事態宣言が解除されてから、月末に向けて販売量が大きく伸びていることから、今後の動向に期待している。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・春の増販期を迎え、人の動きも若干活発になってきている。新車、中古車、サービスのいずれの部門においても販売量が増えている。
	○	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・3月は決算期ということもあり、持ち直しの動きがみられる。客の来店が増えており、それに伴い成約数も伸びている。国による緊急事態宣言が解除されたこともプラスとなっている。
	○	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・前年と比べて来客数が大幅に増えており、受注量もほとんどの店舗で前年を超えている。このままの状態が続けば景気は上向くことになる。
	○	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・3月の売上は厳しかった前年を上回ったが、例年の40%台にとどまるとみられる。昼は、曜日によって増減がみられるものの、全体的には回復傾向にある。知人の飲食店も昼は盛況だが、曜日によって安定しないとのことであった。街中の人出は増えているが、子供や学生など、レストランに来店しそうな客層が多い。
○	観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・海外からの観光客は引き続き皆無であるが、Web経由での国内ビジネス客、観光客の予約に回復の兆しが見られる。	
○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染対策が浸透しているなか、ワクチン接種が開始されたことにより、行動自粛から経済回復にシフトし始めている。既に北海道内のビジネス需要は2月から回復傾向となっている。	

○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・3か月前はGo To Travelキャンペーンが一時停止となったことで、年末の予約がキャンセル続きとなり、新規の予約が全くない状態であった。現在は多少の販売がみられるため、景気はやや良くなっている。
○	通信会社（企画担当）	来客数の動き	・街中の人出が明らかに増えており、それに伴って店舗の来客数も回復している。大型スーパーやドラッグストアなどでの出張販売においても、都市部、地方を問わず人出が大幅に増えており、通信機器の販売量も、サービス契約者数も中高年を中心に回復基調にある。
○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・3月19日以降、来客数が明らかに増えている。週を経るごとに増加幅も拡大している。
○	美容室（経営者）	来客数の動き	・不要不急の外出自粛要請の解除に伴い、各種文化教室の動きが活発になるなど、全体的に活気が出てきている。その結果、客の来店頻度も高くなり、売上がかなり増えてきている。今更ながら自粛要請の影響の大きさに驚いている。
○	美容室（経営者）	お客様の様子	・売上、来客数はほとんど変わらないが、客の雰囲気が良くなっている。購買意欲も上向いている。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・なかなか来客数が増えてこない。依然として商店街の来街者が戻っておらず、むしろ悪化している。
□	商店街（代表者）	来客数の動き	・中心部を訪れる来街者数が低調なまま推移している。当地の感染者数について目立った改善がみられないこと、ワクチン接種について時期も含めて未確定の部分が多いことなどが大きな理由となっている。区域内における駐車場の利用客も、バス停の乗降客数も少ないままである。また、夜型飲食店では、昼間のテイクアウトなどにより若干利用客が増加する兆しが見られているものの、夜間は激減したままである。
□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・前年の3月も今年の3月も客の来ない状況が変わっていない。売上は前年比で92.8%、一昨年比で23.2%となっている。
□	百貨店（役員）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの影響で一進一退を繰り返している状況にあり、景気は変わらない。
□	百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・来客数は前年よりも増加しているが、一昨年と比較すると戻り切っていない。特に衣料品部門での集客は厳しい状況が続いている。
□	スーパー（店長）	それ以外	・引き続き新型コロナウイルスの影響がみられる。売上は前年よりも良くなっているが、一昨年と比較では90%とまだまだ悪い状況にある。
□	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染対策の自粛疲れからか、感染者数のリバウンド傾向がみられる。ただ、感染者が増加しているなかにあっても、客の消費行動は落ち着いており、極端な巣籠り消費も徐々にみられなくなっている。
□	スーパー（役員）	販売量の動き	・前年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、食品のまとめ買い需要が発生し、売上が伸びた時期であった。今年は内食が定着したこともあり、前年並みの売上を保っている。
□	家電量販店（店員）	来客数の動き	・当地域の感染者数が増えたことが影響したのか、3月初めの来客数は激減した。ただ、後半になってやや持ち直してきているため、全体としては変わらない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・なかなか状況が改善されないため、販売量が上向いてこない。
□	自動車備品販売店（店長）	お客様の様子	・北海道の新型コロナウイルス対策に景気が左右されている。3月27日に札幌市民の不要不急の外出自粛などが要請されたことで、景気が下向くことも懸念される。
□	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・原油価格高騰に伴う石油製品価格の値上げ、感染対策での行動自粛などが影響し、販売量は芳しくない。

□	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・国による緊急事態宣言が解除されたことで一時的に来客数が増えたが、全国的に感染者数が落ち着いてこないことから、来客数は依然として少ないままである。
□	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・首都圏の緊急事態宣言が解除されたとはいえ、Go To Travelキャンペーンが再開するめども立っていないことから、旅行需要は以前と変わらずほとんどみられない。また、ワクチン接種がいつまでに一般市民まで行き渡るのかも未定なことから、客の旅行意欲が湧かない状況にある。
□	旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・国内のニュースなどをみても良い話が少なくこともあり、客は旅行を控えている。レジャーに割く時間を作ることが難しい空気になっている。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・3月のタクシー売上は、前年と比較するとプラス10%であったが、新型コロナウイルス流行前の一昨年と比較するとマイナス30%程度であった。夜間の繁華街への人出は少しずつ増えてきたが、新型コロナウイルス流行前と比較するとまだまだ少ない。タクシー1台当たりの売上は前年比プラス20%であったが、一昨年と比べると、昼がマイナス10%、夜がマイナス30%であった。会社全体の売上は乗務員不足の影響もあり、前年比プラス10%にとどまった。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルス禍のなか、3か月前と同じような状況が続いている。新型コロナウイルスが終息しない限り、客の動きなどは変わらない。今後も、感染の再拡大などが無い限り、このままの状況で推移することになる。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・3月は当地においてクラスターが発生したことで、外出自粛の動きが極端に強まっており、前年と同様に稼働が伸びなかった。
□	美容室（経営者）	単価の動き	・年度末にもかかわらず、客が消費を控えている雰囲気を感じられる。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスに関する情報に左右されている客が多い。
□	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・3月は天候に恵まれたことで欠航回数が少なく推移したものの、新型コロナウイルスの影響もあって、人、物共に輸送量が伸びなかった。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・客から、新型コロナウイルスの影響で景気が良くないという声がたくさん聞こえてくる。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・不要不急の外出自粛などの要請が解除されたことで、3月は徐々に景気が回復に向かうと期待していた。1週目は全く駄目だったが、2週目から徐々に客足が戻り始め、4週目になると前年の半分を上回る程度まで回復してきたが、その矢先に再度の外出自粛要請などが出され、飲食店を中心に落胆を隠せず、途方に暮れている。規模の小さな飲食店では、先行きへの不安から、3月末での閉店を決意する店舗が続出している。
▲	スーパー（役員）	単価の動き	・巣籠り需要によって食品小売業の売上が良くなって1年が経過した。ここ数か月、客単価の上昇傾向はまだ続いているが、来客数は減少傾向にある。特に買上点数の減少が目立っており、それに伴って売上も減少してきている。
▲	スーパー（従業員）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの流行から1年が経過し、当初は内食需要の増加で売上が増加したものの、徐々に増加幅が縮小傾向にある。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・買上客数が減少している。また、新型コロナウイルスの感染状況がどうなるか分からないこと、不要不急の札幌との往来自粛が要請されたことなどもマイナス要因である。
▲	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・ドラッグストア業界においては、新型コロナウイルスの流行によって特需が生じていたが、現在はそうした動きにも落ち着きが見られ、通常と同様の状態に戻っている。

	▲	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの影響で飲食店は大打撃を受けている。地元客による夜の会合も余りみられないため、売上が増えてこない状況にある。観光客が唯一の頼りだが、観光客も増えてこない。
	▲	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・新型コロナウイルスが終息してこないことから、景気はやや悪い。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・3月上旬は夜間の人出が徐々に増えてきている様子がみられたが、一時的な動きにとどまった。新型コロナウイルスの感染者数が微増していること、政府や自治体による感染対策の呼びかけなどが影響したとみられる。
	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う外出自粛ムードがいまだに解消されず、旅客事業の根幹たる人の移動ができない状況にある。飲食店も混迷を極めており、景気は後退している。
	▲	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染状況について、第4波を迎えるのではないかと懸念されていることで、不安感が増している。客の消費動向にも影響が出てきている。
	▲	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・例年2～3月は客の動きが活発になり、他の時期よりも商談件数が増える傾向にあるが、今年は外出自粛などの影響もあり、客の動きが良くない。
	×	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・道内の感染拡大が収まらないこと、首都圏の緊急事態宣言が延長されたことなどから、人の動きは余りみられず、一部店舗では休業や時短営業が続いている。このような状況において、来客数が伸びるはずはなく、景気は悪化の一途をたどっている。
	×	スナック(経営者)	来客数の動き	・営業を再開したが、余り売上は良くない。これからどうなっていくのか見当も付かない。
	×	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・首都圏を中心とした緊急事態宣言の長期化により、道外客が皆無である。また、Go To Travelキャンペーンなど、旅行のきっかけとなるような施策もストップしているため、宿泊予約が低迷している。感染の再拡大を心配する声に押され、感染対策と共に進めるべき経済対策の進展が鈍いため、観光業の景気は引き続き下向きで推移している。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・季節要因による需要低迷を考慮しても、客の外出機会が低迷しており、タクシーの利用が顕著に減少している。また、夜間の飲食店の利用については、プライベートでの需要が回復しつつあるものの、ビジネスでの需要に回復の兆しが全く見られない。旅客輸送についてはまだまだ厳しい状況が続いている。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業(役員)	受注量や販売量の動き	・年度内工事は順調にしゅん工を迎えており、追加工事による上積みもあり、3月末決算は見込みを上回る利益額を確保できた。出足の鈍かった新年度工事についても、工場や物流倉庫の新規受注が決まり始めている。
	○	輸送業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・年度末ということもあり、全体的に活発な物流となった。砂糖やでん粉などの農産品、バターや粉乳などの乳製品については、倉庫保管も積み上がってきている。また、飲料関連、雑貨のトレーラー輸送にも動きが出てきた。
	○	金融業(従業員)	取引先の様子	・北海道による集中対策期間が3月7日で終了し、人の動きが活発化している。これに伴い、これまで低調であったサービス消費が増加しており、道内景気は新型コロナウイルスの感染が再拡大した3か月前と比べてやや良くなっている。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・相変わらず低調な受注状況が続いている。
	□	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス禍で人の行動が制限されているものの、慣れによって緊張感がなくなっていることで経済はそれなりに動いている。しかしながら、新型コロナウイルスの終息がみえていないことから、下振れ圧力が高まっている。こうした綱引き状態が受注状況にも反映されている。

	□	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・業績が計画どおりに推移しているなど、当社周辺の景況感についてはやや良い状況が継続している。
	□	司法書士	取引先の様子	・依然として新型コロナウイルスの感染拡大が続いていることから、営業活動が縮小したままであり、不動産の購入意欲も低下している。観光や飲食店の景気も停滞したままである。
	□	司法書士	取引先の様子	・金融機関の住宅ローン新規貸出しの様子から判断すると、現状では余り変化がみられない。家庭内消費や生活に関する消費は増加傾向にあるが、新型コロナウイルスの影響で全体的な景気は下向きで推移している。ただ、一部ではマイホーム購入需要が増加している地域もみられることから、今後の景気については季節要因もあり、少しずつ上向くことになる。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・首都圏では民間需要が弱含みで推移しているが、北海道においては例年どおりの公共工事がみられることから、まずまずの状況にある。
	□	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・3月の売上は引き続きほぼ前年並みで推移している。
	□	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・3月決算の企業が多いこともあり、設備投資が一時的に増加している。ただ、先行きについては不透明である。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・ここ最近、景気動向に動きがみられず、余り良くない状態が続いている。
	▲	金属製品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、建築工事において延期や遅延となっている案件がみられる。また、感染対策に予算を割かれたことで、予定されていた改修工事が中止となった例もみられる。
	▲	建設業（従業員）	競争相手の様子	・数億円規模の民間建築工事の入札があり、予定価格の8割程度で落札された。応札価格はまちまちであったが、全体的に道内業者の応札価格が低くなる傾向がみられた。この結果から、今後の発注量の減少が避けられない道内建設業界の現状が現れているとうかがえる。
	▲	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・新型コロナウイルスの影響が続くなか、変異種ウイルスのことを気にする客が多くみられた。今後についても厳しい状況が続くとみている客が多い。
	×	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・2021年3月の販売量は前年比マイナス53%であったが、3か月前の2020年12月は前年比マイナス22%であったため、景気は悪くなっている。
雇用 関連  (北海道)	◎	—	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・中心市街地への人の出足はまだ鈍いものの、郊外のスーパーや飲食店では顕著な回復傾向がみられる。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が下げ止まりとなるなか、北海道による集中対策期間が解除された。自粛の限界もあつてか、飲食店の来客数が増加傾向にあり、それに伴って求人数も徐々に増加している。宿泊業も若干ではあるが国内客の需要を取り込む動きが出てきている。また、職を失った人が新年度に向けて動き始めていることで求職活動も活発になってきている。
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・年度替わりに向けた季節要因も影響しているが、業種を問わず求人ニーズが増えてきている。
	○	職業安定所（職員）	採用者数の動き	・2月の有効求人倍率は1.26倍と前年を0.06ポイント下回ったものの、就職件数が前年を上回っている。

<input type="checkbox"/>	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人意欲の旺盛な企業と採用を手控える企業に分かれている。飲食、観光関連などでは従業員の稼働が本来の6割程度しかなく、雇用調整助成金でしのいでいる企業が多くみられるなど、回復のめどが立っていない。積極的な求人を行っている企業は、業績の早期回復を目指し、客へのアプローチを積極的に行うなど、新型コロナウイルス禍にあっても意欲的にみえる。企業の動きが両極端となっているため、全体的な景気は変わらないと判断している。</li> </ul>
<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作 会社 (編集者)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、年度替わりの時期に求人数が増える傾向がある。新型コロナウイルス禍における今年も同様の傾向がみられる。</li> </ul>
<input type="checkbox"/>	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景気動向について大きな変化はみられない。当地域における新型コロナウイルスの感染状況は終息しているが、企業動向にそれほど大きな変化はみられず、やや停滞気味での推移となっている。</li> </ul>
<input type="checkbox"/>	職業安定所 (職員)	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当地域における2月の有効求人倍率は0.83倍であり、3か月前の11月と比較して0.05ポイント下回っているなど、低下傾向がみられる。</li> </ul>
<input type="checkbox"/>	学校 [大学] (就職担当)	採用者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の本学の新卒内定率はリーマンショック以後で最悪の状態にある。最終的な数値が分かるのは2週間後であるが、新型コロナウイルス禍のなか、企業の新卒採用の動きは非常に厳しいものがあつた。2022年卒の学生についても企業の慎重な姿勢がうかがえることから、しばらくは厳しい状態が続く。</li> </ul>
<input checked="" type="checkbox"/>	*	*	*
<input type="checkbox"/>	—	—	—